

1. 評価結果概要表

平成 20年 6月 27日

【評価実施概要】

事業所番号	2090100070
法人名	社会福祉法人博悠会
事業所名	グループホームフランセーズ悠よしだ
所在地	長野市吉田四丁目19番4号 (電話) 026-256-6680

評価機関名	株式会社福祉経営サービス研究所 サービス評価推進室		
所在地	長野県松本市深志3丁目7番17号		
訪問調査日	平成20年6月27日	評価確定日	平成20年7月23日

【情報提供票より】(20年 4月 1日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 7月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤9人	非常勤5人 常勤換算12.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	60,000 円	
敷 金	無 (0円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (100000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	400 円	昼食	600 円
	夕食	450 円	おやつ	50 円
	または1日当たり		1,500 円	

(4) 利用者の概要 (4月 1日 現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名	
要介護1	2名	要介護2	6名			
要介護3	8名	要介護4	2名			
要介護5	要支援2					
年齢	平均	82 歳	最低	63 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人愛和会 愛和病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成19年7月1日に社会福祉法人博悠会により作られた。隣接敷地には、本部棟・デイ・ショート・障がい児の保育園がある。訪問した日は、蒸し暑い日だったがホーム内は、建物に工夫がされているということで自然の空調で涼しく感じられた。ホーム長の産休で不在の時期もあったが職員同士の協力で利用者に不安の無い生活が送られた。職員は、介護の基本を忠実に守り働いている。利用者の方々が出来ることを職員と共にやり、動きのある生活が感じ取られた。昼食後も利用者の多くの方がリビングに居て驚いた。お昼寝をする方は、あまり居ないように見受けられた。リビングで仲間や職員との交流が心地よいのだろうと思った。ホーム長は、今後は、地域の方々と交流が出来るように、又職員は、初心を忘れないようにしなければいけないと考えている。穏やかで笑顔が多く見られる利用者の方々に役割を忠実にやっている職員が寄り添い、更に新しいホームが出来て行くことを期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	平成19年7月1日開設。 今回初の外部評価。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	全員が初めての経験であった。職員に自己評価票を渡し読んでもらった。項目別に担当グループを決め各々で話し合い作成した。初めての経験であったが、考えることが出来勉強になったと伝えられた。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	2ヶ月に一回の開催を予定している。一回目の会合がスタートした。今後運営推進会議を活かしホームの生活に役立てたいと考えている。利用者や地域との関わり方・非常災害の訓練への参加など議題に盛り込んで行きたい。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	家族の訪問時への声掛けなどして交流を図っている。家族よりの要望など聞かされる事もありその都度職員の共有の問題点として話し合い改善に努めている。今後ホーム便りの発行も検討していただきたい。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ボランティアの受け入れなどは、行われて交流は出来ている。ただホームより地域に対しての働き掛けが弱いので今後力を入れて行きたい。地域行事の情報を得ることを心がけ利用者の参加を勧めていただきたい。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な生活環境」「残存能力を活かした生活を支援する」「尊厳のある生活を重視する」と掲げている。地域の中での生活を前提とした理念を作ったが、(地域と共に・・・)の言葉が入っていないので今後付け加える事も考えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新規採用時に、理念を伝えている。月一回の定例会議の時に話している。日々の生活で利用者との交流が馴れ合いになってしまう時など、反省の意味も含め、定例会の議題として取り上げている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ボランティアの受け入れなどは、行われているがホームから地域への働きかけ・参加は行われていない。開設1年と言うことで、利用者の生活の安定をまず第一に考えずごしてきた。	○	本部棟が隣接しているので地域の行事などを聞き、ホームとして参加し、利用者が地域の方々と生活できるような配慮をお願いしたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員に評価の用紙を配布し、読むことと、項目ごとの参加をもらった。職員は、自己評価の項目を見ることで介護の仕事の奥の深さを知り、大変勉強になったと伝えられた。		

グループホームフランセーズ悠よしだ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開設1年という環境であるが1回行われた。次回は、7月に行われる。第一回の会議には、ホームの活動内容などの発表で終わったが、今後は、2ヶ月に一回の開催を予定している。議題も地域の行事参加・非常災害時の協力体制作りなど議題として、提案・お願いをしていきたい。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	あんしん相談員の受け入れをお願いしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の担当職員によるお便りが月に一回家族のもとに届けられる。内容は、利用者の近況と、ホームでの生活の写真を盛り込んだものを送っている。今後は、ホーム便りを作成していきたいと考えている。個人のおこずかいの預かりはしていない。緊急の用事には、電話で連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「ご意見箱」を玄関に設置してあるが過去に利用されたことは無い。家族よりの要望などは、直接職員に伝えられることが多い。家族が訪問された時に、積極的に職員が家族との関りを図ることにより、家族から多くの意見を頂いている。職員で話し合い、検討して家族へ、対応の返事をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人関連の施設はあるが、グループホームという環境を考え法人内の異動は、極力控えている。職員の勤務時間をパートであっても8時間労働で対応している。職員の環境作り心がけ、休憩時間を必ず取れるように、ゆとりの持てる人員の配置がされている。職員も少ない時間でも必ず休息の時間が取れることで次の働きに活かされてくると思われる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本部で行われる研修に参加している。外部研修への参加を計画している。法人の人事考課の制度があり、毎月の目標を作り6か月毎の査定がある。個人面談が行われる事で意見など発言の場が出来る。パート勤務から条件が揃えば、正社員にも登用される。毎日のケアノート・申し送り等利用者の生活を細かく観察し記録を残している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	善光寺平ネットワークに参加している。毎月一回の情報交換に参加している。職員個人が他のグループホームと交流があり、日々の生活の参考にしている事もある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	法人のショートステイ利用者・デイ利用者からの入居者も居る。申し込みの際は、ホームを見学していただき、利用者と一緒に過ごしお茶など飲んで雰囲気味わっていただく。入居の順番が近くなった時点で、ホーム長がお宅を訪問して対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員達は、利用者から沢山のことを教えてもらっていると話している。お料理特に漬物などは、教えてもらうことがたびたびある。又職員の悩みなどちょっとしたことに的確にアドバイスをしてくれる時もあり嬉しく思っている。職員をねぎらう言葉を利用者から、かけられる事もある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	現在の利用者の方々は、職員と会話の中で自分の思いなどを話し伝えられる方が多いと思われる。利用者の生活暦が詳しく調査されているので、背景や個性などが感じ取れることが出来希望など思いが伝えられない場面になっても、以前の生活暦の調査とホームでの毎日の生活状態で把握できると考えられる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時に本人・家族の希望を聞き取りケアプランを作成している。	○	生活機能・行動・特性等を踏まえた上で利用者の生活の維持・改善・向上と目指したサービス計画が必要と思われる。利用者本位のものにし、一人ひとりの尊厳と自立を支えるサービス計画の作成が重要と思われる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の担当者による見守りの中で状況が変化した時は随時見直しをしている。1ヶ月に1回定例会で評価の作業をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接のデイサービスで行われる行事への参加。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院の2週間に一回の往診が行われている。家族よりの依頼で協力医への移行が多い。訪問看護も2週間に1回行われている。家族も定期的にホームへ医者が来ることに安心感を持っている。職員も現在服用している薬などの対応の様子を見ながら医者・看護師に相談をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今年に入り看取りの方が居た。入院・退院を繰り返すうちに徐々にレベルが落ちてきた。協力医から「看護指針」をもらい勉強しながらの看取りをした。	○	ホームとしての方針は、看取りまでの意向があるが現在は、体制作りが出来ていない。今後は、マニュアル作り・職員の研修・家族との関係・又運営推進委員会の議題にも提案していただくことも検討していただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の記録などのファイルは、施錠の出来るキャビネットに保管されている。日常の生活で、職員は利用者に対し目上の方に対する接し方をしている。穏やかに話しかけ、同じことの繰り返しを態度を変えずに行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の配置にゆとりのある配置となっているので、利用者にとっても職員にとっても利用者のペースにあわせた生活が出来ているように感じる。		

グループホームフランセーズ悠よしだ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が主導で、利用者の方々が出来ることで参加されている。野菜を切ったり、盛り付けをしたり、後片付けの手伝いをしたりしている。当番が決められていて掛け声と一緒に食事を頂いている。テレビを消して利用者同士、又職員との会話をしながら、ゆっくりと時間をかけて食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ユニットごとに風呂場がある。家庭風呂と一段上の足腰が不自由な方でも入れる可動式の風呂が用意されている。現在は、利用者の方々は、どちらのお風呂でも利用できるが、将来選択できることが考えられる。1週間に三回位入浴している。利用者の希望を聞き入れ無理強いはいしない。バイタルチェックも行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	謡の得意な利用者の方が、ホームの仲間と職員に先生となって教えていた。それぞれ大きな口をあけて練習していた。いけばなの得意な方は、家族が花を届けに来てそれを活かして飾っている。利用者の誕生会をお祝いしている。外食や行事への参加もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のいい日は、職員と一緒に散歩に出かける。ヤギ小屋が近くにあるのでそこまで行ったり、あまり暑くない日は、少し遠くまで出かける。神社へ遊びに来ている保育園の園児達との出会いもあり楽しみになっている。毎日の食材の買出しに、必ず利用者数名出かけ買い物を楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を職員は理解している。玄関の鍵は、夜間と早朝のみである。ご家族によっては、訪問される時間が夜の8時過ぎの方もいらっしゃるが、声掛けしていただくように家族に話してある。居室の鍵は無い。玄関は、チャイム確認できるようにになっている。		

グループホームフランセーズ悠よしだ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回災害対策の訓練は行っている。三月の訓練は、消防署と共に通報訓練を行い六月の訓練は、ホームで利用者と一緒に避難訓練を行った。	○	ホーム敷地内には、本部棟・関連施設の棟があるので災害訓練も全体の合同で行われることを希望したい。利用者の安全とスムーズに避難が出来るように年2回行われる訓練には、都合をつけて出来るだけ多くの職員に参加してもらい、体験していただきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、隣接する施設の栄養士による献立を利用している。排便表が作られているので水分の補給などに役立っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然による空調で快い室温になっている。玄関には、腰掛けるスペースが作られている。リビングにもソファへが置かれていて好きな場所で過ごせる。利用者の活けた花が飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームではベッドが備え付けられているが、利用者の好みで変更も出来る。家族の写真が飾られて居たり、仏壇やタンス・テレビなど多くのものが持ち込まれていて、その人の生活を伺うことが出来る。居室には、洗面台が設けられているので、職員の声掛け、介助等で整容をしている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。